

平城京左京三条一坊二坪の発掘調査（平城第658次）

都城発掘調査部（平城地区）では、奈良県からの受託研究で、2023年10月から2024年2月にかけて、平城京左京三条一坊二坪の発掘調査をおこないました。左京三条一坊二坪は、平城宮の正門である朱雀門に近く、朱雀大路や二条大路と接続していることから平城京の一等地ともいえる場所です。しかしながら、坪の中心部分における土地利用の状況はほとんどわかつていませんでした。

現在、奈良県の地域デザイン推進局平城宮跡事業推進室では、平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区の整備に向けた検討をおこなっています。これにともない、昨年度より左京三条一坊二坪における遺構の様相を確認するための発掘調査を継続して実施しています。今回は、昨年度の成果をうけて南北25m、東西45mの調査区を設定しました。調査面積は約1,125m²です。

調査の結果、奈良時代の掘立柱建物や掘立柱塀をはじめ、井戸と考えられる大土坑や、礎石を捨てこんだ土坑群などを確認しました。調査区北部では掘立柱建物を6棟確認しました。これらの建物群は、南端の柱筋をほぼそろえて東西に整然と並んでいま



調査区全景（南東から）

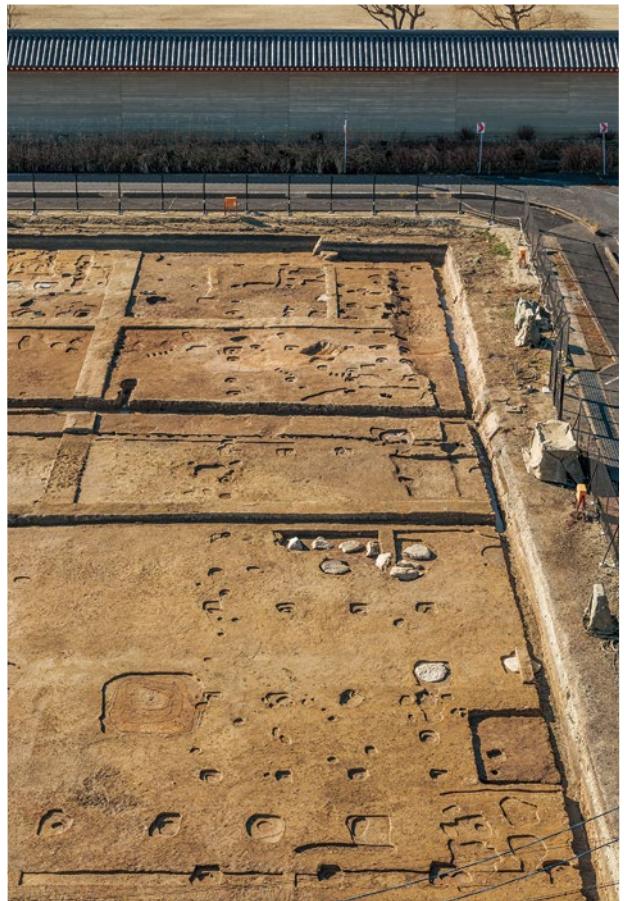
した。また、調査区東側で南北方向に、調査区南側で東西方向に展開する掘立柱塀を確認しました。そして、調査区各所で多数の土坑を検出し、合計18個の礎石とみられる石を確認しました。出土状況から、後世に土坑へ石が捨てこまれたものであると考えられます。

以上のように左京三条一坊二坪の北半部分を中心に広く発掘調査した結果、掘立柱建物や掘立柱塀をはじめ、井戸と考えられる大土坑や、礎石を捨てこんだ土坑を確認し、土地利用の様相があきらかになりました。坪内を塀で区画していたことや、掘立柱建物群が計画的に建てられていたこと、調査区付近に複数棟の礎石建物が存在していた可能性があることがわかりました。

2024年1月27日には現地説明会を開催し、679名の方々に調査成果をご覧いただきました。当日は寒い中、現地に足をお運びいただきありがとうございました。

調査終了後も、報告書の作成に向けた遺物の整理作業を進めていますので、今後の研究成果にどうぞご期待ください。

（都城発掘調査部 田中 龍一）



東西に並ぶ掘立柱建物群（東から）